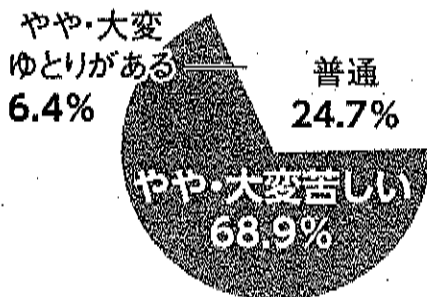


暮らしが苦しい 7割

40歳以上の単身女性

暮らしぶりについて



(中高年シングル女性の生活状況実態調査結果から)

40歳以上の単身女性の生活状況について、当事者でつくる団体「わくわくシニアシングルズ」は22日、調査結果を公表しました。暮らしが「苦しい」と答えた人が7割(図参照)となり、新型コロナウイルス感染症流行と物価高が「女性の貧困」に追い打ちをかけていることが分かりました。

コロナ・物価高が追い打ち

調査は8月4日から1カ月半、インターネットで実施。有効回答は2345人でした。40歳以上の単身で暮らしが女性を対象。独身、離婚、死別、子どもと同居中も含みます。

調査によると、働き方については正規職員が半数未満。非正規職員・自営業では年収200万円未満が53%となりました。非正規を選んだ理由は「正規職に就けなかった」など本人の意思に反するという答えが半数を超えました。

「いつまで働くか」という問いでは、「働ける限りはいつまでも」「生きていく限り、死ぬまで」を合わせるなど、正規職員で53%、非正規で79%でした。

「住居費支払い後の家計」に余裕がない人は40代、50代で6割以上と、重い住居費負担も明らかになりました。

りました。

同団体の大矢さよ子代表はこの日の会見で、「暮らしが苦しい」という回答が2016年の調査から大きく増えており、「コロナ禍と物価高で困窮度は増している」と指摘。男女賃金格差の是正など政策の見直しを急務だと話しました。

調査に協力した立教大学が貧困に陥っています。

の湯澤直美教授は「日本の

企業社会において、女性の貧困」は初期設定として埋め込まれ、不可視化されている」と批判しました。

相対的貧困率は高齢になるほど男女差が広がります。75歳以上の女性の4人に1人、単身の高齢女性が貧困に陥っています。

公営住宅に住む権利求める

規職員) ○10年近く働き、新入社員に仕事を教えていたがコロナ禍で真っ先に派遣切りであった。(40代、離婚)

○家賃の負担が非常に大きい。失職、年金生活になった場合に現在の家賃が払えない。単身高齢女性は容易に部屋を借りることができない。政府には家賃補助金や単身女性が公営住宅に住む権利を要求したい(50代、独身、正規職員)

給与ギリギリ命つなぐだけ

○就職氷河期に社会に出るも一度も正規で雇われず。給与はギリギリ。命をつなぐだけの人生。(40代、離婚、非正規職員)

○20年以上非正規で同じ職種で働いているが賃金は上がらない。(50代、独身、非正規職員)

○今生きるために働いているので将来の蓄えがなく、子どもたちが自立したら迷惑をかけないように早く死ぬしかないと思っている。(40代、離婚、非正